

青森労災病院 キャリアラダー

能力	レベル	I	II	III	IV	V
看護の核となる実践能力	レベルごとの定義	基本的な看護手順に従い必要に応じて助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断を持ち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
	【レベルごとの目標】	助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合してニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味を踏まえニーズをとらえる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □ 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ 意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を巻き取り多様な状況やニーズの情報収集ができる □ ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ② フィジカルアセスメントができる ③ 指導を受けながら、情報を基に看護上の課題点を抽出できる ④ 看護上の課題に対してその原因と関連因子がわかる ⑤ 指導を受けながら看護計画が立案できる ⑥ 標準看護計画を用いて個別的な計画立案ができる ⑦ 指導を受けながら、記録マニュアルに基づいた目標が決定できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自立してフィジカルアセスメントができ、家族や社会的背景について意図的に情報収集ができる ② 他の医療チームからも意図的に情報の収集ができる ③ 情報の分析・統合により、看護問題を明確にできる ④ 優先順位を踏まえて看護問題を抽出できる ⑤ 実践可能な計画が立案できる ⑥ 患者の価値観が理解できる ⑦ 情報を分析し患者・家族の意見を取り入れ、個別性をふまえた計画が立案できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる ② 得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる ③ 情報を整理統合し、状況から課題を判断できる ④ 根拠に基づいて看護問題を抽出できる ⑤ 優先順位を踏まえて、患者・家族とともに看護計画が立案できる ⑥ 患者の状態・状況に応じ、速やかに看護計画の立案・修正ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 他のメンバーの情報を活かし、総合的に情報収集ができる ② 予測される看護問題の抽出ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 複雑な状況を把握し、ケアの受け手を巻き取り多様な状況やニーズの情報収集ができる ② 患者のみならず家族との関係から潜在化する問題を明確にできる 	
【レベルごとの目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性を踏まえた看護を実践する	様々な看護技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する	
【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □ 指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □ 看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ ケアの受け手の状況に応じた援助ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手の個別性に合わせて、適切なケアを実践できる □ ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法工夫ができる □ ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □ 幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追及できる □ 複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる 	
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 指導を受けながら、看護計画に沿ったケアが実践できる ② 指導を受けながら、看護基準・手順に基づいて安全かつ正確に基礎的看護技術が実践できる ③ 指導を受けながら、看護記録マニュアルに基づいて看護実践が記録できる ④ 看護実践の結果を報告できる ⑤ 指導を受けながら看護サマリが記載できる ⑥ 緊急時は指示を受けて行動できる ⑦ 看護行為によって患者の生命を脅かす危険性があることを認識し行動できる ⑧ 「退院支援とは」をのべることができる ⑨ 助言を受けながら退院支援スクリーニングシート、退院支援計画書の記入ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護計画に基づいた看護実践ができる ② 患者の状況に合わせた看護技術を用いて看護が実践できる ③ 患者の状況をふまえて優先順位を判断し、対応することができる ④ 患者および家族の指導ができる ⑤ 患者や家族の反応(言動・表情・行動)を見ながら援助することができる ⑥ 看護実践が記録できる ⑦ 緊急時に役割を判断し対応ができる ⑧ 看護実践における倫理的側面を理解し、看護実践に繋がることを行うことができる ⑨ 看護実践の結果を簡潔、正確に報告できる ⑩ 看護実践について、評価・修正できる ⑪ 看護実践に対する患者の反応を評価し、記録できる ⑫ 看護サマリが記載できる ⑬ 必要なツールを用いて情報収集ができる ⑭ 入退院支援マニュアルを活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者のニーズに応じた個別的な看護ケアを実践できる ② 患者・家族指導を実践できる ③ 緊急時に適切な判断と確実な技術で対応することができる ④ 受け持ち患者の看護ケアの妥当性を評価できる ⑤ 患者・家族指導の効果を確認できる ⑥ 退院支援の視点で個別性を踏まえた看護過程が展開できる ⑦ 実践した看護を退院支援の視点で、ケースレポート等で振り返ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 健康段階に応じた患者及び家族の教育指導ができる ② 緊急事態を予測して予防的に行動できる ③ 退院支援に際して、医療福祉サービスを活用し、指導できる ④ 在宅での問題に関して把握でき、他部門との調整を図ることができる ⑤ 退院支援の教育・指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 複合的な看護問題に対して、視覚のある適切な看護計画を立案できる ② 専門領域の健康段階に応じた患者および家族の教育指導ができる ③ ハイリスク患者に対して悪化を予防するケアを提供できる ④ 行われた看護の妥当性・効果について評価し、質向上のために探求できる ⑤ 退院支援を取り巻く人々と連携しながら、退院支援を推進できる 	
看護の核となる実践能力	レベルごとの定義	関係者と情報共有できる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携できる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
	【レベルごとの目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を受けながらケアの受け手を見ていくために必要な情報が何かを考慮し、その情報を関係者と共有することができる □ 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □ 助言を受けたケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解し、うえで、それぞれ積極的に情報交換ができる □ 関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □ 看護の展開に必要な関係者を特定できる □ 看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ ケアの受け手とケアについて意見交換できる □ 積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □ 多職種間の連携が機能するように調整できる □ 多職種の活力を維持・向上させる関わりができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自主的な判断のもと関係者に積極的に働きかけを行うことができる □ 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □ 関係者・多職種間の中心的役割を担うことができる □ 自陣に向けて多職種の活力を引き出すことができる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① チームメンバーの役割を理解し協働できる ② 他職種の役割が理解できる ③ 患者・家族および看護チームとコミュニケーションがとれ、報告・連絡・相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 安全・確実な看護実践するために相談・確認ができる ② 患者カンファレンスに参加し意見を述べることができる ③ チームで共有すべき情報をメンバーに伝達できる ④ 適切な言葉遣いがあり、思いやりのある心でよい人間関係をつくることを行うことができる ⑤ 医療チームの一員として協力的にかかわることができる ⑥ 自己覚知した上で、自分の傾向・人に見えぬ印象等を認識して行動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① チームメンバーの考えを引き出し、調整・アドバイス・指導ができる ② 多職種カンファレンスを開催できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護実践の効果を高めるために、地域の医療チームとの関係を調整することができる ② 意図的に多職種からの情報を活用できる ③ 多職種チーム運営における問題について、解決のための活動ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 院内外にネットワークをもち、協力関係をつくらせる ② 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① チームメンバーの役割を理解し協働できる ② 他職種の役割が理解できる ③ 患者・家族および看護チームとコミュニケーションがとれ、報告・連絡・相談ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 安全・確実な看護実践するために相談・確認ができる ② 患者カンファレンスに参加し意見を述べることができる ③ チームで共有すべき情報をメンバーに伝達できる ④ 適切な言葉遣いがあり、思いやりのある心でよい人間関係をつくることを行うことができる ⑤ 医療チームの一員として協力的にかかわることができる ⑥ 自己覚知した上で、自分の傾向・人に見えぬ印象等を認識して行動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① チームメンバーの考えを引き出し、調整・アドバイス・指導ができる ② 多職種カンファレンスを開催できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護実践の効果を高めるために、地域の医療チームとの関係を調整することができる ② 意図的に多職種からの情報を活用できる ③ 多職種チーム運営における問題について、解決のための活動ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 院内外にネットワークをもち、協力関係をつくらせる ② 多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる 	
看護の核となる実践能力	レベルごとの定義	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に伴うゆがみを共有し、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種もめめた調整的役割を担うことができる
	【レベルごとの目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □ 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ 患者・家族の意向の違いを多職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・家族の同意を得て看護行為を実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者や家族の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ② 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・家族の意思決定に必要な情報を提供できる ② 患者・家族の意向の違いを多職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・看護師・家族等に発生している倫理的ジレンマを把握し調整できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 適切な資源を積極的に活用し、患者や家族の意思決定プロセスを支援できる ② 法的および文化的配慮など多方面から患者や家族を擁護した意思決定プロセスを支援できる
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・家族の同意を得て看護行為を実施できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者や家族の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ② 確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・家族の意思決定に必要な情報を提供できる ② 患者・家族の意向の違いを多職種に代弁できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 患者・看護師・家族等に発生している倫理的ジレンマを把握し調整できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 適切な資源を積極的に活用し、患者や家族の意思決定プロセスを支援できる ② 法的および文化的配慮など多方面から患者や家族を擁護した意思決定プロセスを支援できる 	
労災病院独自	レベルごとの定義	勤務看護に必要な知識を習得し、助言を得て、勤務看護を実践する	勤務看護を意図して看護を実践する	労働生活と健康問題の関連性を考え個別的な支援を実践する	関係者と調整し健康問題と労働生活の両立を支援する	勤務看護の推進役としての役割を果たす
	【レベルごとの目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 勤務看護とは「を」述べる事ができる □ 勤務看護の実践過程において、日本看護協会キャリアラダーを踏まえる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 必要なツールを用いて情報収集ができる □ 勤務看護業務基準を活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 勤務看護の視点で個別性を踏まえた看護過程が展開できる □ 実践した看護を勤務看護の視点でまとめることができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 職業との両立に向けて、勤務者の自立を支援できる □ 勤務者の教育・指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 勤務看護の推進役としての役割を果たす
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護とは「を」述べる事ができる ② 助言を受けながら勤務者アセスメントシートの記入ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 必要なツールを用いて情報収集ができる ② 勤務看護業務基準を活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護の視点で個別性を踏まえた看護過程が展開できる ② 実践した看護を勤務看護の視点でケースレポートなどで振り返ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職業との両立に向けて、勤務者の自立を支援できる ② 勤務者の教育・指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護を取り巻く人々と連携しながら勤務看護を推進できる
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護とは「を」述べる事ができる ② 助言を受けながら勤務者アセスメントシートの記入ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 必要なツールを用いて情報収集ができる ② 勤務看護業務基準を活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護の視点で個別性を踏まえた看護過程が展開できる ② 実践した看護を勤務看護の視点でケースレポートなどで振り返ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職業との両立に向けて、勤務者の自立を支援できる ② 勤務者の教育・指導ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤務看護を取り巻く人々と連携しながら勤務看護を推進できる 	
組織的役割遂行能力	レベルごとの定義	(責任の最も軽い、難易度の最も低い) 軽微な組織的役割を果たす	組織の一員としての役割を理解し、部署の目標達成に向けて行動する	部署での立ち位置を理解し、部署における組織的役割(チームリーダー、サブリーダー、学習会係、業務改善係、感染管理、補償ケアなど)を遂行する	部署・看護部で、特殊または専門的な能力を必要とされる役割、または、指導的役割(学生指導、教育委員、リスクマネジメント委員など)を遂行する	部署を超え、看護部や病院から求められる役割を遂行する
	【レベルごとの目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 病院・看護部の理念や目標、所属部署の目標を理解する □ 組織の一員及び看護師としての自覚を持ち、社会人として自立する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 所属部署の目標達成のため、割り当てられた役割を理解し遂行する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 所属部署の目標達成のため、自分の役割を理解し、積極的に行動する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護部・部署の目標達成のため、他者と協働する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護部・部署の目標達成のため、推進役として積極的に行動する
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 病院・看護部の理念、方針を述べることができる。部署の目標を述べることができる □ 看護単位の指示・命令・報告系統(組織図)を理解し、行動できる □ 助言を得て一日の業務計画を立案・実践できる □ 物品の破損・不足等を報告できる □ 基本的な安全確認行動が実践できる □ 仕事と生活のバランスを保ち、勤務することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 所属部署の目標達成のため、割り当てられた役割を遂行できる □ チームメンバーとして自立した行動ができる □ 一日の業務計画を立案・実践できる □ コスト意識をもって業務を実践できる □ いろいろな場面を想定(KY)して安全確認行動が実践できる □ 新人や後輩に関心を持ち関わる事ができる □ 時間内に業務が終了できるように自己のタイムマネジメントができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ チームリーダーの役割を理解し部署の目標達成のため、リーダーシップ(※1)を発揮することができる □ チーム・部署の目標達成のためにフォローアップ(※2)を発揮できる □ 日々のリーダーとしてチームメンバーの業務に指導的に関わる事ができる □ チームの一員としての業務計画を意図的に実践できる □ リスクを予測・安全対策行動をとることができる □ 後輩や新人・学生に正しい指導的な役割を実践できる □ 時間内に業務が終了できるようにチーム内の調整ができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ チームリーダーとして部署・看護部の目標達成のため、積極的に取り組み、成果を出せる □ 部署・看護部の目標達成のために積極的に取り組み、フォローアップ(※2)を発揮し成果を出せる □ チームを超えてスタッフ・学生などの個性に応じた教育的支援ができる □ 多職種と互いの役割と立場を尊重し合い、チーム活動を推進できる □ 安全性・経済性・効率性を考え、物品等の有効活用ができる □ 所属部署の事故防止に向けた取り組みを推進できる □ 看護部委員会に所属部署の代表として積極的に参加し、協議に貢献できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護部・部署の課題を発見し、組織の一員として「達成に向けてリーダーシップ(※1)・フォローアップ(※2)を発揮することができる □ 高い倫理観を持ち、ロールモデルとして行動できる □ スタッフ一人一人の業務遂行状況に関心を持ち指導・支援できる □ 緊急事態(災害・火災・医療事故等)において状況に合った適切な役割行動をとることができる □ 職場の環境改善の視点から業務改善に取り組むことができる □ 看護部や部署の教育プログラムを企画運営し、人材育成に貢献できる
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 病院・看護部の理念、セクションの目標が理解できる ② 院内のルールシステムを理解し、職務が遂行できる ③ 指導を受け、実施と請求の仕組みを理解し実践できる ④ 器具・器材を正確に取り扱うことができる ⑤ 薬剤を適切に請求・受領・保管できる ⑥ 破損・紛失・故障時、速やかに報告できる ⑦ 指導を受けながら、効果効率を考えた物品を選択できる ⑧ 時間内に勤務を終了できる ⑨ 社会人としての基本的な接遇マナーが実践できる ⑩ 医療安全マニュアルが理解でき活用できる ⑪ 感染対策マニュアルを理解し活用できる ⑫ 診療報酬について学習できる ⑬ 災害発生時、リーダーの指示に応じて行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 病院・看護部・セクションの目標達成に向けて、日常的な組織的役割が遂行できる ② 全ての看護業務において診療報酬とのつながりを意識して実践することができる ③ 医療安全マニュアルに沿って確実に行動できる ④ 感染対策マニュアルに沿って確実に行動できる ⑤ 器具・器材の異常がわかる ⑥ 破損・紛失・故障等に適切に対応できる ⑦ 災害や事故発生時、メンバーシップが発揮できる ⑧ 災害発生時、マニュアルに沿って行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① チームリーダーの役割を理解しセクションの目標達成のため、リーダーシップ(※1)を発揮することができる ② チーム・セクションの目標達成のためにフォローアップ(※2)を発揮できる ③ 日々のリーダーとしてチームメンバーの業務に指導的に関わる事ができる ④ 安全管理・コスト削減の視点を持って業務を実践できる ⑤ 災害発生時、適切な安全対策行動をとることができる ⑥ 後輩や新人・学生に正しい指導的な役割を実践できる ⑦ 時間内に業務が終了できるようにチーム内の調整ができる ⑧ 医療安全マニュアルに沿った行動が指導できる ⑨ 感染対策マニュアルに沿った行動が指導できる ⑩ 事故が発生しやすい状況予測できる ⑪ 災害発生時、適切な安全対策行動をとることができる ⑫ 器具・器材の安全管理ができる ⑬ 無駄な消費がないよう医療材料を使用できる ⑭ 災害発生時、スタッフの役割分担を指示できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故を起こしやすい状況を指摘し、事故防止対策を立案し周知できる ② 患者の安全が守られるように、メンバーの行動に気を配ることができる ③ 災害発生時の院内体制を理解し、患者と職員の安全を守る方法を説明できる ④ セクション目標に対する課題の解決に向けて、対策の立案・実践・評価を行うことができる ⑤ 専門分野に精通し関係する診療報酬について説明できる ⑥ 業務上の問題に、調整・協力することができる ⑦ セクションの問題について積極的に解決しようとする姿勢がもてる ⑧ 看護部長を補佐し、不在時にはその代わりを実践することができる ⑨ 看護部内の委員会活動の推進役になれる ⑩ 他チームの目標達成に向けた活動を支援できる ⑪ 医療材料・機械器具の点検・整備について、指導と管理ができる ⑫ 主に使用する機械器具等について、病院の経済性を考え調整できる ⑬ メンバーが時間内に業務を終えられるように支援できる ⑭ メンバーと協力し、効率よく業務が行えるよう対策を立て、評価し、改善できる ⑮ 学生の学習目的に基づき、実習指導者を指導できる ⑯ 災害発生時、院内の体制を把握し、患者と職員との安全を確保できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護部・部署の課題を積極的に発見し、事故防止対策を立案し周知できる ② 患者や職員の安全を守るように配慮して、職場環境を整備できる ③ 防災対策を企画し、リーダーとして行動できる ④ 病院や看護部の課題の解決に向けて、セクションの目標達成に貢献できる ⑤ 専門分野の機械器具を費用対効果を考えて整備できる ⑥ 専門分野の機械器具について最新の情報を収集し、病院看護への適応を提案できる ⑦ 時間を要する指導や説明について、効率的で効果的な方法で取り組んでいる ⑧ 看護部の問題について、積極的に解決のための努力をしている ⑨ 院内の委員会活動の推進役になれる ⑩ スタッフおよび指導者層の役割モデルとして活動している ⑪ 委員会の目標を明確にしながら、目標達成に向けて活動することができる ⑫ 専門分野の医療材料・機械器具を費用対効果を考えて整備し、調整できる ⑬ 専門分野の機械器具について最新の情報を収集し、病院看護への適応を提案できる ⑭ 時間を要する指導や説明について、効率的で効果的な方法で取り組んでいる 	
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 病院・看護部の理念、セクションの目標が理解できる ② 院内のルールシステムを理解し、職務が遂行できる ③ 指導を受け、実施と請求の仕組みを理解し実践できる ④ 器具・器材を正確に取り扱うことができる ⑤ 薬剤を適切に請求・受領・保管できる ⑥ 破損・紛失・故障時、速やかに報告できる ⑦ 指導を受けながら、効果効率を考えた物品を選択できる ⑧ 時間内に勤務を終了できる ⑨ 社会人としての基本的な接遇マナーが実践できる ⑩ 医療安全マニュアルが理解でき活用できる ⑪ 感染対策マニュアルを理解し活用できる ⑫ 診療報酬について学習できる ⑬ 災害発生時、リーダーの指示に応じて行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 病院・看護部・セクションの目標達成に向けて、日常的な組織的役割が遂行できる ② 全ての看護業務において診療報酬とのつながりを意識して実践することができる ③ 医療安全マニュアルに沿って確実に行動できる ④ 感染対策マニュアルに沿って確実に行動できる ⑤ 器具・器材の異常がわかる ⑥ 破損・紛失・故障等に適切に対応できる ⑦ 災害や事故発生時、メンバーシップが発揮できる ⑧ 災害発生時、マニュアルに沿って行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① チームリーダーの役割を理解しセクションの目標達成のため、リーダーシップ(※1)を発揮することができる ② チーム・セクションの目標達成のためにフォローアップ(※2)を発揮できる ③ 日々のリーダーとしてチームメンバーの業務に指導的に関わる事ができる ④ 安全管理・コスト削減の視点を持って業務を実践できる ⑤ 災害発生時、適切な安全対策行動をとることができる ⑥ 後輩や新人・学生に正しい指導的な役割を実践できる ⑦ 時間内に業務が終了できるようにチーム内の調整ができる ⑧ 医療安全マニュアルに沿った行動が指導できる ⑨ 感染対策マニュアルに沿った行動が指導できる ⑩ 事故が発生しやすい状況予測できる ⑪ 災害発生時、適切な安全対策行動をとることができる ⑫ 器具・器材の安全管理ができる ⑬ 無駄な消費がないよう医療材料を使用できる ⑭ 災害発生時、スタッフの役割分担を指示できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療事故を起こしやすい状況を指摘し、事故防止対策を立案し周知できる ② 患者の安全が守られるように、メンバーの行動に気を配ることができる ③ 災害発生時の院内体制を理解し、患者と職員の安全を守る方法を説明できる ④ セクション目標に対する課題の解決に向けて、対策の立案・実践・評価を行うことができる ⑤ 専門分野に精通し関係する診療報酬について説明できる ⑥ 業務上の問題に、調整・協力することができる ⑦ セクションの問題について積極的に解決しようとする姿勢がもてる ⑧ 看護部長を補佐し、不在時にはその代わりを実践することができる ⑨ 看護部内の委員会活動の推進役になれる ⑩ 他チームの目標達成に向けた活動を支援できる ⑪ 医療材料・機械器具の点検・整備について、指導と管理ができる ⑫ 主に使用する機械器具等について、病院の経済性を考えて調整できる ⑬ メンバーが時間内に業務を終えられるように支援できる ⑭ メンバーと協力し、効率よく業務が行えるよう対策を立て、評価し、改善できる ⑮ 学生の学習目的に基づき、実習指導者を指導できる ⑯ 災害発生時、院内の体制を把握し、患者と職員との安全を確保できる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 看護部・部署の課題を積極的に発見し、事故防止対策を立案し周知できる ② 患者や職員の安全を守るように配慮して、職場環境を整備できる ③ 防災対策を企画し、リーダーとして行動できる ④ 病院や看護部の課題の解決に向けて、セクションの目標達成に貢献できる ⑤ 専門分野の機械器具を費用対効果を考えて整備できる ⑥ 専門分野の機械器具について最新の情報を収集し、病院看護への適応を提案できる ⑦ 時間を要する指導や説明について、効率的で効果的な方法で取り組んでいる ⑧ 看護部の問題について、積極的に解決のための努力をしている ⑨ 院内の委員会活動の推進役になれる ⑩ スタッフおよび指導者層の役割モデルとして活動している ⑪ 委員会の目標を明確にしながら、目標達成に向けて活動することができる ⑫ 専門分野の医療材料・機械器具を費用対効果を考えて整備し、調整できる ⑬ 専門分野の機械器具について最新の情報を収集し、病院看護への適応を提案できる ⑭ 時間を要する指導や説明について、効率的で効果的な方法で取り組んでいる 	
自己教育・研究能力	レベルごとの定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組む	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開する	自己の学習活動に積極的に取り組み、指導的な役割を実践する	自己のキャリア開発に向けて活動を開始する	主体的に自己のキャリア開発に取り組む
	【レベルごとの目標】	<ul style="list-style-type: none"> □ 看護部門や所属部署の教育計画に沿って学習できる □ 助言を得ながら、自分に必要な学習を進めることができる □ 助言を得ながら、個人目標を立案し目標管理シートに記載し、達成に向けて行動できる □ 助言を得ながら、日々の看護業務の中での疑問に気づき、解決できる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自己の目標管理シートに沿って計画的に活動できる □ 看護の疑問に対して文献検索し、解決することができる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自己のキャリア開発に向けた活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自己のキャリア開発に向けて活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 主体的に自己のキャリア開発に取り組む
	【行動目標】	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己の看護を振り返り、できることできないことを明確にして、不足部分を学習できる ② セクションの学習会に参加できる ③ 院内研修プログラムに参加できる ④ 自分の学んだ知識や技術を他者に伝達できる ⑤ 日常の看護の中で、疑問や問題意識を持つことができる ⑥ 課題達成に向けて、個人目標を立案(目標管理シートに記載)し、計画的に取り組むことができる ⑦ 他者のアドバイスを受け入れ、自分自身の振り返りと課題を明確にして取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリアラダーの課題に取り組むことができる ② 院内の研修に積極的に参加することができる ③ キャリアラダーを活用して、目標管理シートの作成ができる ④ 自己の目標管理シートに沿って計画的に活動できる ⑤ 看護の疑問に対して文献検索し、解決することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標管理・キャリアラダーの本質を理解し、自己の課題を明確にキャリアプランを立案できる ② 自己の目標達成のために進捗状況の管理をし、先輩・上司に相談できる ③ 助言を得て、所属部署の教育プログラムの企画・運営に参加できる ④ 研究的視点を持ち、看護に関する文献を看護実践に生かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己のキャリア開発に向けた活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に自己のキャリア開発に取り組む
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己の看護を振り返り、できることできないことを明確にして、不足部分を学習できる ② セクションの学習会に参加できる ③ 院内研修プログラムに参加できる ④ 自分の学んだ知識や技術を他者に伝達できる ⑤ 日常の看護の中で、疑問や問題意識を持つことができる ⑥ 課題達成に向けて、個人目標を立案(目標管理シートに記載)し、計画的に取り組むことができる ⑦ 他者のアドバイスを受け入れ、自分自身の振り返りと課題を明確にして取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリアラダーの課題に取り組むことができる ② 院内の研修に積極的に参加することができる ③ キャリアラダーを活用して、目標管理シートの作成ができる ④ 自己の目標管理シートに沿って計画的に活動できる ⑤ 看護の疑問に対して文献検索し、解決することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標管理・キャリアラダーの本質を理解し、自己の課題を明確にキャリアプランを立案できる ② 自己の目標達成のために進捗状況の管理をし、先輩・上司に相談できる ③ 助言を得て、所属部署の教育プログラムの企画・運営に参加できる ④ 研究的視点を持ち、看護に関する文献を看護実践に生かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己のキャリア開発に向けた活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に自己のキャリア開発に取り組む 	
【実践例】	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己の看護を振り返り、できることできないことを明確にして、不足部分を学習できる ② セクションの学習会に参加できる ③ 院内研修プログラムに参加できる ④ 自分の学んだ知識や技術を他者に伝達できる ⑤ 日常の看護の中で、疑問や問題意識を持つことができる ⑥ 課題達成に向けて、個人目標を立案(目標管理シートに記載)し、計画的に取り組むことができる ⑦ 他者のアドバイスを受け入れ、自分自身の振り返りと課題を明確にして取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① キャリアラダーの課題に取り組むことができる ② 院内の研修に積極的に参加することができる ③ キャリアラダーを活用して、目標管理シートの作成ができる ④ 自己の目標管理シートに沿って計画的に活動できる ⑤ 看護の疑問に対して文献検索し、解決することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標管理・キャリアラダーの本質を理解し、自己の課題を明確にキャリアプランを立案できる ② 自己の目標達成のために進捗状況の管理をし、先輩・上司に相談できる ③ 助言を得て、所属部署の教育プログラムの企画・運営に参加できる ④ 研究的視点を持ち、看護に関する文献を看護実践に生かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己のキャリア開発に向けた活動を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ① 主体的に自己のキャリア開発に取り組む 	

(※1)・・・その人が置かれた状況において、目標達成に向けて、個人あるいは集団に影響を及ぼすプロセス。
(※2)・・・目的を共有するチームを機能させるために、上司やチームメンバーに対して主体的に働きかけると。